

UDC すみだ 概要書

2020.09 UDC すみだ設立準備室

墨田区 大学のあるまちづくり

すみだキャンパスタウンを目指して

大学があるまちの都市空間と暮らしの提案

墨田区は、東京 23 区の中で唯一大学がない区でしたが、

長年の大学誘致の取り組みの成果が実り、

文花地区に 2 つの大学が開校することとなりました。

大学の存在は、若者の流れを呼び込み、周辺地域の賑わいを創出するだけでなく、

その知をもって、地域の暮らしに様々な発展を生み出す可能性を持っています。

これを契機に、墨田区と 2 大学の力を集結し、

すみだならではの大学のあるまちづくりに共に取り組むことで、

職・住・学・遊が調和する〈すみだの未来〉の実現を目指します。

墨田区初の大学、開校。

平成 20 年度から大学等の教育機関の誘致に取り組んできた結果、墨田区内初の大学として、旧曳舟中学校・旧西吾孺小学校跡地及び旧すみだ中小企業センターに、情報経営イノベーション専門職大学が開学、千葉大学 デザイン・リサーチ・インスティテュートが開設することとなりました。このエリアでは隣接するあずま百樹園と大学キャンパスの屋外空間を一体的に整備し、地域に開かれたオープンなキャンパスとなることを計画しています。大学が地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目指し、両校と包括的連携協定も締結しました。

2020年4月開学



「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する。」を教育理念に掲げ、4年間で情報通信技術と経営に関する知識・スキルを活用し、国際社会と地域社会でイノベーションを起こす、革新を創造する能力を身に付ける教育を行う。「ICT × ビジネス × グローバルコミュニケーション」をカリキュラムの柱とし、起業を目指す。インターンシップにより、現場での課題発見や課題解決を通じて、システム開発・保守、新規提案、実装などの専門知識と実務を身に付ける。

ICT

ビジネス

グローバルコミュニケーション



2021年4月開設予定



千葉大学の先進的なデザイン教育と実践の場となる国際的・学術的な研究拠点。デザイン・都市環境・建築・ランドスケープ・イメージングの5分野を中心に相互連携し、イノベーション創出に向けた分野横断型の研究を行う。地元企業と連携した多様で実践的な研究にも取り組む。墨田区という日本の伝統的なエリアを活用し、海外から短期留学生を対象とした、日本の最先端技術を学ぶグローバルプログラムも実施予定。

デザイン

都市環境

建築

ランドスケープ

イメージング



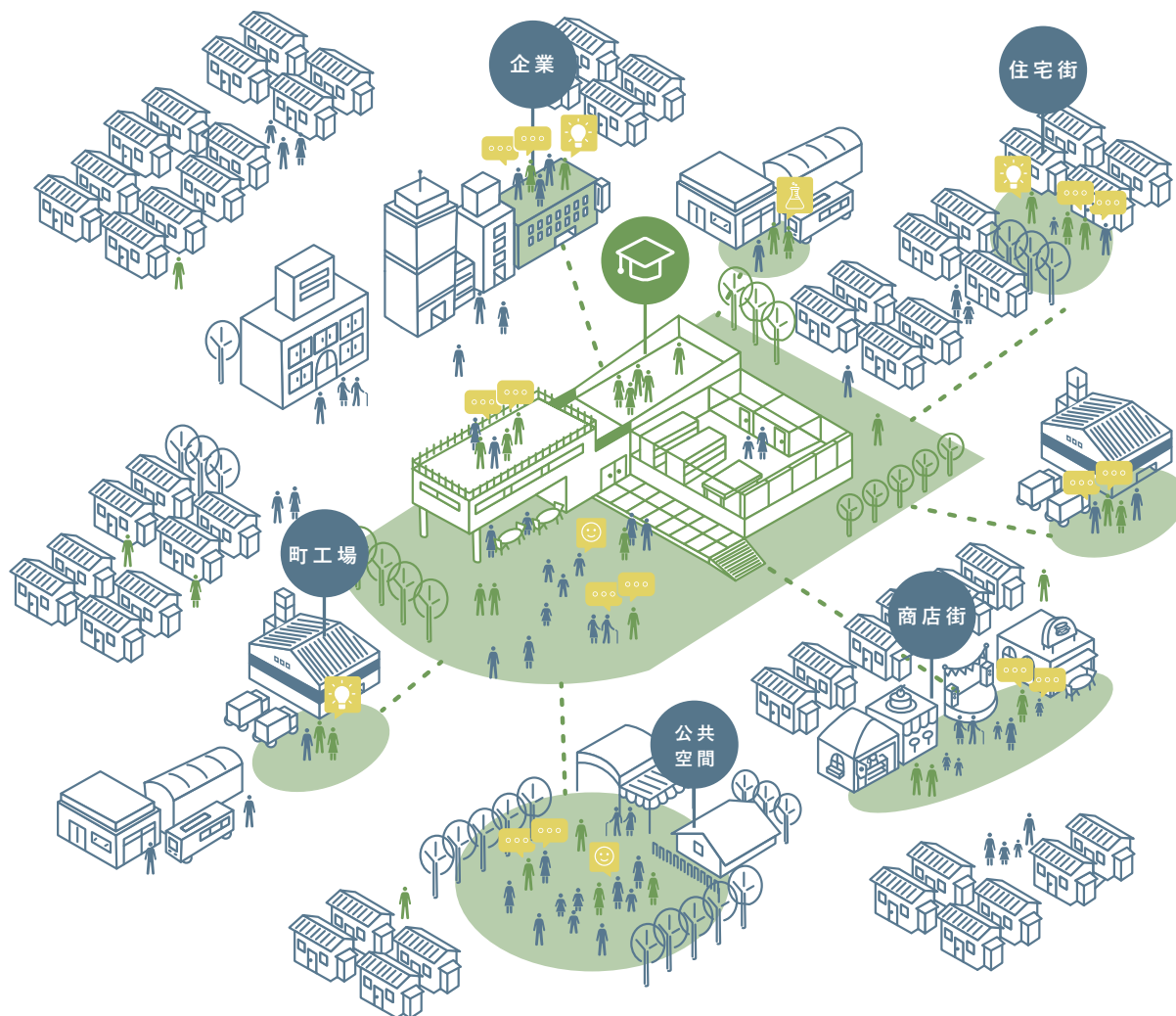
キャンパスのようにまちをつくり、まちのようにキャンパスをつかう

キャンパスをまちに開く

キャンパスの有する人的資源、学術的な蓄積、空間的資源を地域に開き、共に活用することで、地域と大学が新たな関係性を結ぶことができます。公開講座を実施したり、ライブラリー、カフェなどのサービスや緑豊かな屋外空間などを地域市民も使用できるようにすることで、地域の教育や暮らしの豊かさに寄与することができます。また、専門的な設備や知見を開くことにより、産学連携による高度な研究・開発の場・イノベーションを創出する場としても機能することが期待できます。地域と共にシェアする、まるでまちのようなキャンパスを目指します。

地域で学ぶ、地域も学ぶ

地域全体をキャンパスに見立て、地域の中で現実の地域・社会の課題に立脚した取り組みを行うことによって、学生の実践的な教育を行うことができます。地域と大学が共同で地域課題に取り組むこと、大学内に足りない機能は積極的にまちにある機能を活用することで、まち全体が生きた実験場（リビングラボ）となり、実際のキャンパス以上の研究環境をつくることができるだけでなく、区民の人材育成や地域活性化にも繋がります。



“継続的な”公・民・学連携を生み出す

「大学とまちの融和」を実現するためには、地域社会に必要な公的サービスを担う「公」、地域の活力と魅力の向上を担う「民」、そして専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「学」の各主体が、従来の枠組みを超えて連携する新たなまちづくりの仕組みを構築する必要があります。

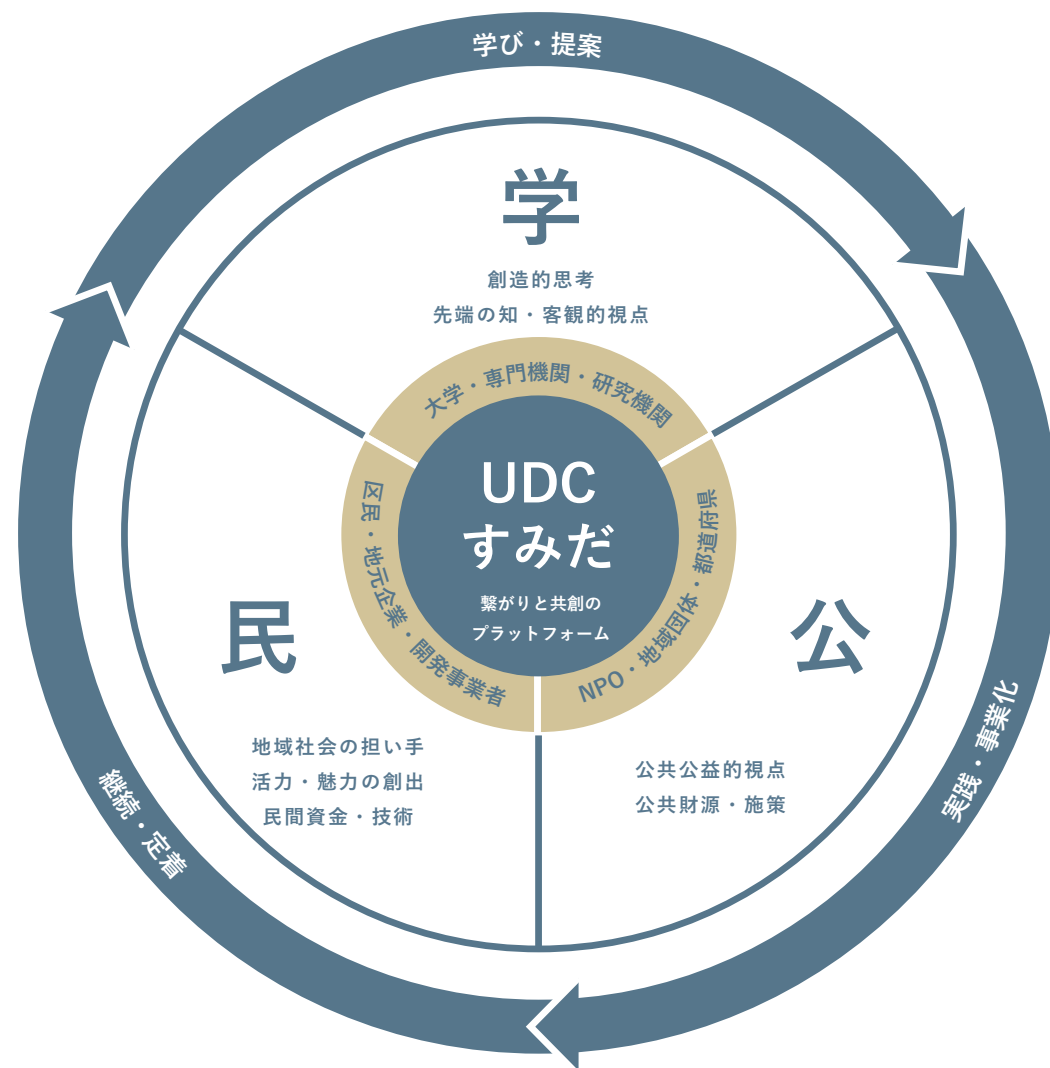
それぞれの主体が共に力を合わせて〈未来のすみだ〉を実現するためには、大きな構想の設定だけでなく、関係機関との調整、制度の改善や上位計画へのフィードバック、フォローアップが必須です。また、一度設定した目標や施策を、めまぐるしく変わる社会の状況に応じて再検討し、柔軟な姿勢で見直し・変更しながら運用していくことも重要です。

そこで、各主体の協力・連携を継続して維持し、共に構想を推進していくための中心的な存在として、「公・民・学」が共同で設立・運営する組織をつくります。

繋がりと共創のプラットフォーム

『UDC すみだ』の設立

UDCとは、アーバンデザインセンター(Urban Design Center)の略称です。「公・民・学」が連携するまちづくり組織として、構想対象エリアに拠点施設を構え、将来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメント等のハード面、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面、双方のアプローチから、総合的なまちづくりに取り組みます。



UDCは、2006年11月の柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)創設時に構想された、課題解決型=未来創造型まちづくりのための公・民・学連携のプラットフォームです。行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的立場から携わる新たな形のまちづくり組織や拠点として、UDC アジェンダの基に全国に展開しています。(https://udc-initiative.com/about/)

UDC すみだの役割と考え方

UDC すみだが前提とする考え方

誰にでも優しく (ユニバーサルデザイン)

継続的・共創的に (リビングラボ)

持続可能性 (SDGs の指針に基づいて)



UDC すみだの役割

学習・研究・提案

実証実験・事業創出

デザインマネジメント

(ビジョン検討、企画・提案)

エリアマネジメント

(民間主体の積極的なまちづくり)



UDC すみだ “地域と共に” 取り組みたい 4つのこと

CONNECT

繋ぐ



地域内には様々な資源、多様な人や活動団体、幅広い情報などが点在しています。これらのモノやコトを繋ぐ役割を果たし、新たな共創や連携を生み出します。

LEARN

学ぶ



地域密着型のシンクタンクとして、先進的な知識や技術、地域の歴史や資源、社会の課題や新しい価値観など、様々な分野について、調査・分析・研究を進め、対話の機会を生み出します。

CREATE

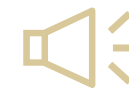
創る



新しい仕組み、新しい場、新しいネットワーク、新しい事業、新しい暮らし、新しい風景。ハード面・ソフト面の双方から、まちに必要なモノ・コトを考え、創造します。

COMMUNICATE

伝える



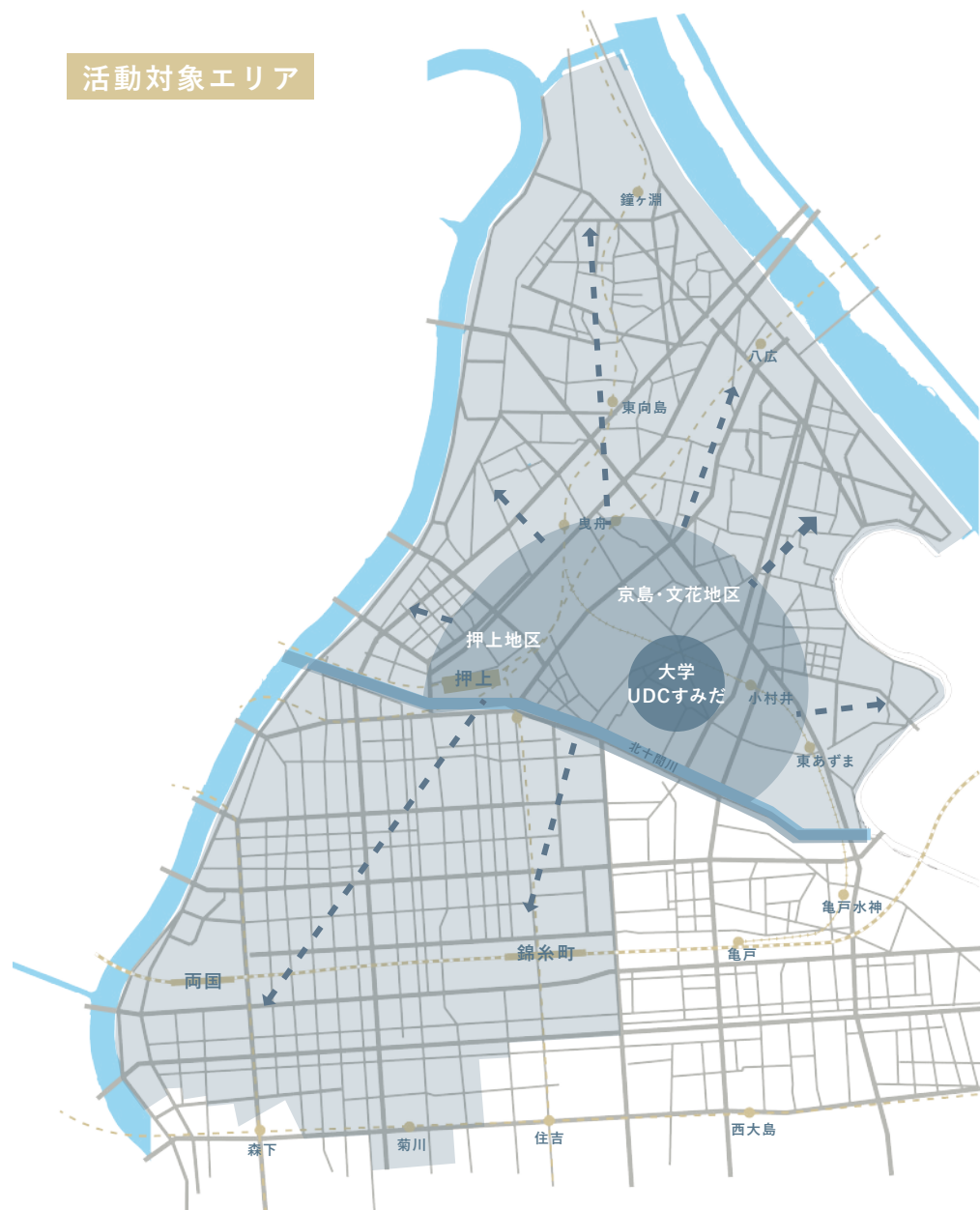
地域の課題や活動内容、成果などの情報を、透明性をもって地域へ発信し、参画を促します。また、取り組みやすみだの魅力について、社会に広く発信します。

拠点と活動エリア

地域にも開かれたUDC すみだの拠点を千葉大学キャンパス内に構えます。UDC すみだの活動エリアは、まずはじめは京島・文花地区及び押上地区、それらに隣接して流れる北十間川沿いを主としています。将来的には墨田区全域で、様々な取り組みを行っていく予定です。



活動対象エリア



〈すみだの未来〉をつくる

墨田区では、区民と区が共に目指す目標として、2006年に「墨田区基本構想」を策定しました。その中で、〈すみだの未来〉を実現するために5つのミッションを掲げています。UDC すみだでは、それらの実現に向けて、前提とする考え方を基盤に具体的な目標設定とプロジェクトの実施を行います。

mission

- ①「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
- ②地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
- ③新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
- ④安心して暮らせる「すみだ」をつくる
- ⑤区民と区が協働で「すみだ」をつくる

10の目標と100のプロジェクト

「すみだ百計」で「すみだ百景」をつくる

5つのミッションをもとに、分野ごとに10の目標を設定します。この目標を実現するために、すみだにある「すみだ百景」「百花園」「百樹園」にちなんで100（たくさん）のプロジェクトの種を蒔き、それがすみだの歴史・伝統・文化を肥やしとして大きな木として成長し、まちに根ざしていくことを目指します。



UDC すみだの検討体制（案）と事業スケジュール

UDC すみだの検討体制（案）

- ・ 墨田区
- ・ 千葉大学
- ・ 情報経営イノベーション専門職大学
- ・ 東京商工会議所 墨田支部
- ・ 墨田まちづくり公社
- ・ 東武鉄道
- ・ UR 都市機構
- ・ 東京東信用金庫
- ・ 株式会社マイキー

事業スケジュール

